

## 平成23年9月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

### ◎代表質問

五人会  
3番 上野安是

#### 1. 行政改革に対する今後の取り組みについて

現在井原市第5次行政改革大綱・集中改革プラン（平成22年度～平成26年度）を策定し、全庁あげて取り組んでいるところでありますが、今までの評価をもとに今後どのように進めていかれるのか、市の考えを伺う。

#### 2. 市内に総合的な福祉施設を整備しては

井原市保健センター、井原市総合福祉センター等の老朽化、業務の一元化、一体化を進めるために、市内に総合的な福祉施設を整備する必要があると考えるが、市の考えを伺う。

井原市民クラブ  
15番 河合建志

#### 1. 井原市職員の給与について

先般、総務文教委員会で兵庫県小野市を行政視察した。

小野市の行政経営戦略に能力成果主義の本格導入がある。

人事評価制度を導入し、自己評価と面談を取り入れ透明性・納得性・公平性を確保し、「能力評価」、「業績評価」を昇給・昇格に反映している。井原市内の複数の中小企業は親企業の三菱自動車やマツダ等の指導で定期昇給や賞与に「職能給制度」を約30年前から導入し、年功序列の古い賃金制度を打破してきた。井原市も更なる発展のため、一歩ずつ改革する必要があると思うが市の所見を伺う。

## 2. 天神峡の実情に即した対応について

天神峡は水のシーズンを迎え、子供たちを中心とした多数の家族連れで賑わった。先の6月議会で提案した個人所有の駐車場の開放の件は、官民一体となって地権者に交渉し、営業を休む日は、観光客が無料で使用できるようになった。地権者に深く感謝している。それでも天神峡の全ての駐車場は満杯である。あふれた多くの車が、狭い市道宇内塚線の路側に駐車されている。対向車が来たら曲がった道をバックし、非常に危険である。

市道宇内塚線の拡幅、又は新たな駐車場の設置を夏場の来シーズンまでに対応する必要性を痛感した。市長の所見を伺う。

井原星和会

10番 川上武徳

## 1. 水道料金体系の統一について

昨年の10月定例会で市内水道料金について質問しました。市長の答弁は、料金統一は非常に難しい問題だが料金の一元化に向け、段階的な料金の改定、実施時期等について検討し、将来的には、水道料金は市内で統一すべき課題と考えているとのことでした。その後の検討状況と今後の取り組みについて伺います。

## 2. いじめや不登校について

文部科学省のいじめ調査において、岡山県では、1, 123件も認知されていると報道されました。

本市におけるいじめ及び不登校の件数と防止対策について伺います。

◎ 個人質問

17番 川上 泉

1. 第5期介護保険事業計画策定について

- ① 井原市高齢者保健福祉アンケート調査結果について伺う。
- ② 入所待機者調査結果について伺う。
- ③ 井原市介護保険事業の課題について伺う。
- ④ 特別養護老人ホーム・老人保健施設の必要性について伺う

2. 雇用確保について

企業誘致と市内企業の活性化は本市にとって最重要課題である。本市の取り組みと考え方について以下の点を伺う。

- 1) 企業誘致は他市町との競争である。強力な体制が必要と考えるがその取り組みについて伺う。
- 2) 市内企業と行政との連携は市の活性化に欠かせない。市長自ら企業経営者と互いに様々な課題について共通認識を持つことが必要ではないか。企業経営者と市長が適時話し合う機会を設けることが必要ではないか伺う。

3. 教育現場の課題とその対策について

- ① 文部科学省の2010年度児童生徒問題行動調査で、岡山県は小中高生の暴力行為、小学生の不登校の発生率がともに全国の都道府県で最悪となった。まずこの結果に対する教育長の見解を伺う。
- ② 市内小、中のいじめ、不登校、暴力行為などの実態を伺う。

- ③ 問題行動への即効薬はないが少なくとも今日までの様々な取り組みだけでは解消できないことが示された。今後更に何に取り組むのか。短期、中期、長期に分けてその施策について伺う。

1 番 坊 野 公 治

1. 定住促進について

1) ①現在井原市が取り組んでいる定住促進事業についてお伺いします。

②各課を横断した専門の担当課を設置してはどうかお伺いします。

2) 若者の定住促進のため、住宅新築に係る助成金制度を創設されてはどうか、お伺いします。

1 6 番 鳥 越 孝太郎

1. 東日本大震災を教訓として学ぶべき事は何か。広域災害にあって近隣自治体の果たすべき役割と広域防災体制について

1) 安全、安心のまちづくりを進める中で、東日本大震災を教訓として学ぶべき事は多いと思いますが、今後どう生かし政策に反映していかれるのでしょうか。また、瀬戸内沿岸部での大規模な広域災害が発生した場合、井原市としての応援体制整備など近隣自治体の果たすべき役割を具体的にどう考えているのでしょうか。

2) 広域防災体制には消防の広域化が重要であると思います。本市はこれまで平成24年度を目途に市町村常備消防の広域化を推進されてまいりましたが進捗状況について伺います。

## 2. 「自治体クラウド」の導入による行政事務効率化とコスト削減の電子自治体基盤づくりについて

電子自治体を進める本市にとって複雑多様化する行政事務効率化とコスト削減をもっと進める必要があります。

「自治体クラウド」は、情報処理システムを共有コンピューターで一元管理し、ネットワーク経由で利用できる画期的なシステムであります。システム統合によるコストの削減と市民の利便性向上を図るために積極的に導入してはどうか。

12番 佐藤 豊

### 1. 介護ボランティアポイント制度について

介護ボランティアポイント制度は高齢者にボランティアへの参加を通じて、生きがいとやりがいをもってもらい、介護が必要な状態を防ぐことになれば、全体的にみて保険給付費の減額にもつながる取り組みであります。平成21年6月議会で提案しましたが、市長答弁では、課題も多いが、先進的な取り組み事例の収集や研究に努めるとともに、地域の特性や実情に照らし、関係機関と協議を進め、効果的な地域支援事業の実施について検討していきたいとのことであります。その後、どのように検討されたのか伺います。

全国的には、ボランティア対象である介護保険施設等に加え児童関連施設等への受け入れ拡大や企業や商店街の協賛店で、ポイント利用ができるなどの拡充を図るなど、制度導入への取り組みが進んでいるようです。本市としても、制度の趣旨を真剣に検討され、介護保険制度改正がされる平成24年4月に向けて取り組まれてはと考えますが、市長のお考えを伺います。

## 2. ICT・テレビを活用した高齢者見守りについて

高齢化が著しい井原市では、民生委員や地域での見守り体制により、また、緊急通報装置の貸与などで高齢者の見守りや緊急時の対応に力を注いでいます。しかし、民生委員や地域の見守りの皆さんに、毎日、持続的に見守りを実施していただくことは、地区や地域の状況では大きな負担がかかる取り組みであり、負担軽減の施策が必要と考えます。

現在、多くの自治体でICTやテレビを活用した見守りに取り組んでいる事例を聞きます。本市としても、さらなる見守り体制の充実として取り組んではと考えるのですが、市長の考えを伺います。

## 3. 小学校・中学校での救命救急講習会の実施について

サッカー元日本代表選手の練習中での心臓疾患による死亡報道は、サッカーファンはもとより、ファン以外にも大きなショックを与え、何時何処で事故や疾病が発症するかわからないと多くの人が不安を抱いた事故でした。そうした、近年の社会背景から、子どもから大人までの救命救急講習会を実施する自治体や学校が広がりつつあります。本市でも一般にAED講習を含めた救命講習会が実施されていますが、小学生や中学生を対象にした救命救急講習会は実施していないと認識しています。しかし、子どもたちは保護者や先生の居ない所での遊びやスポーツをする機会も多くあり、突発的な状況のときの対応を危惧するところです。そうした時の対応のため、今後、児童・生徒の安全施策として小学校、中学校での段階的な救命救急講習会の実施をすべきと考えますが、教育長のお考えを伺います。

## 4. EM菌の活用による環境浄化の取り組みについて

EM菌を活用した取り組みは、現在、井原ライオンズクラブ、井原さくらライオンズクラブのアクティビティ（活動）として市内小学校、中学校へのプールへ利用し、プール使用前の清掃活動で汚れ落ちが顕著に見られ、また、清掃時間の短縮がされ喜ばれています。また、利用プールも増えるように聞いています。他県では、学校プールの利用のほかに生活排水の水質浄化事業としてEM菌を排水設備（台所・風呂・洗濯機・トイレ）から流し、パイプのヌメリを分解し、くさい匂いを無くし生活環境の改善に、そして、側溝、水路、河川の水質浄化を行

なっています。本市も下水道未整備地域や中山間地の環境維持の観点から、また、環境改善の観点から普及促進が望まれますが、現状でのお考えを伺います。

22番 乗 藤 俊 紀

1. 井原市の基幹系システム利用と今後の対応について

1) 井原市の基幹系システムについては、昭和49年に汎用機を導入し、税務、福祉、住民情報等の基幹業務を取り組んできました。今後、国の動向により、外国人住民制度、国保広域化制度（後期高齢者医療制度廃止）、納税者番号、社会保障番号制度等の見直しが予想されます。

このため、システムの切り替えが必要ですが、今議会補正予算の、1億9,600万円の債務負担行為は、平成24年7月施工予定の住民基本台帳法改正に合わせた「公平性」「透明性」「将来性」を基軸としたシステム再構築調達を実施するための補正予算と考えます。

① 現行システムと業務処理を見直すことによる大きなメリットをお尋ねします。

② 去る7月の調達では、11社に対する指名プロポーザル方式で実施されましたが、最終的な提案参加者は1社となり、事実上、競争性の働かない調達となりました。今回のような基幹業務を司る重要なシステムの調達については、より多くの事業者から幅広く提案を受け入れ、ベストな提案を採択することが大変重要と考えます。

11社のうち1社だけの参加者で調達の契約をすることは、有効なのか。法的根拠と合わせお伺いします。

また、指名プロポーザルでなく、公募型プロポーザルを行わない理由と根拠は。最近では、県内はもちろん全国的にも、公募型のプロポーザルを採用している自治体が増えていますが、今後の考え方についてお伺いします。

③ 透明性の観点でお伺いします。選定委員会における業者選定基準において、評価項目の一部が示されているだけで、評価の視点、採点基準、評価項目ごとの配点や価格点の算出方法が示されていません。さらに、指名審議会における審査方法や審査基準が、実質的に何も示されていません。また、選定委員会での審査内容、経緯について公表しないこととしていることと、選定結果についていかなる問い合わせも異議申し立てもできないこととしていますが、透明性に欠けているのではないのでしょうか。

国が示している「情報システムの調達に係る総合評価落札方式の標準ガイド」では、落札者と入札者それぞれに入札価格と性能等の得点を公表することとしています。

このような透明性の低さは、提案参加者をはじめ、議会や市民に対する説明責任が果たせないばかりか、新規参入者の提案意欲を大きく低下させる要因になるのではないかと、市の考えをお伺いします。

④ 公平性の観点でお伺いします。既存システムとのデータ連携において、既存システム側で発生する作業やデータ移行について、予定移行回数を超えた場合に既存システム側で発生する作業、既存のネットワーク機器等に対する設定・調整作業など現行業者で実施せざるを得ない作業についても、契約の範囲としている。

さらには、既存の電子帳票システムと既存の高速ラインプリンタ等を原則または継続利用するよう求めているのは公平性の高い調達プロセスと言い難い。井原市にとって、最適なものを調達するためには、幅広く提案が受けられるように高い公平性が確保されるべきと考えますが、見解をお伺いします。

⑤ 将来性の観点からお伺いします。自治体クラウドを見据えた調達としているが、企画提案実施要項や仕様書等において、将来、どのような自治体クラウドへの移行を想定しているのか、井原市の将来像をどのように考え、その中で今回のシステム構築をどのように位置づけているのか、本調達に係る企画提案実施要項や仕様書の中には、こうした説明がありませんでしたが、市の見解をお伺いします。



2) 井原市のシステム全体のあるべき姿について伺います。

中長期にわたって、全体最適化を進めていくためには、井原市のシステム全体のあるべき姿＝将来像を明確に描き、そこに至る第一ステップとして、今回の調達を位置づけるべきと考えます。より将来性の高いシステムの構築を期待するところでもあります。

考え方と方針について伺います。

4番 簀戸利昭

#### 1. 井原鉄道への支援について

① 井原市は、これまでも井原線沿線の自治体と協力し、様々な支援策、利用促進策を実施してきましたが、なかなか井原鉄道の利用者は増えない状況です。

これまで実施してきた支援策、利用促進策の検証が行われていると思いますが、効果のあった事業などこれまでの成果を伺います。

また、そうした検証結果を踏まえた今後の沿線との協力体制、支援体制及び利用促進に向けた取り組みについて伺います。

② 井原鉄道の支援策の一環としても位置付けられている無料観光バスの利用状況（過去5年間）、課題点及び今後の取り組みについて伺います。

20番 森本典夫

#### 1. 医学奨学生育成の観点から奨学金制度の導入を

以前にも医学生に対する奨学金制度の導入を提言したことがあります。井原市民病院での医師確保の観点から、改めて、中・長期展望にたつて奨学金制度の導入を考えてはどうですか。

6月21日付けの中国新聞に「尾道市の医学奨学生 定員の倍4人採用 医師確保に必要と判断」という見出しで奨学金制度について報道されていました。予算は960万円です。大変参考になるのではないですか。

2. 学童保育施設の耐震診断と耐震工事の実施を。また、学童保育指導員の増員を  
井原市では、市内の学校施設や公共施設の耐震工事が急速に進んでいます。ただ、市内の学童保育に利用している施設の地震に対する備えは十分なのか心配です。将来を託す子どもたちが、安全で安心して生活できる環境づくりは非常に重要です。それぞれの施設の耐震診断を行い、耐震工事が必要な施設は工事を実施してはどうですか。

また、安心・安全な環境づくりのため、学童保育指導員の増員をしてはどうですか。

3. 井原市が行っている都市宣言に沿って啓発塔の新設を

井原市の都市宣言は、昭和35年7月13日の「平和都市宣言」に始まり、平成8年の「人権尊重の都市宣言」までで8件あります。

この内、「暴力追放宣言」「健康福祉都市宣言」「井原市非核平和都市宣言」の3件が、市役所西駐車場に前記宣言を書いた3面の啓発塔があるだけです。

都市宣言で言えば、8件のうち2件しか建てられていないというのが実情です。市民をはじめ市外の方々にも、井原市はこんな宣言をしていますという啓発のための塔です。早急にすべての都市宣言の啓発塔を新設してはどうですか。

4. 肺がん検診の早期発見と精度向上のため、「CT検査」の導入を

市内の医師から次のような声を聞きました。「現在、肺がん検診のため、市の検診などでは、胸(肺)のX線撮影で診断している。確かにX線撮影でも早期発見に効果はあると思うが、これで発見できないこともあり、診断精度向上のためには「CT」が非常に効果がある。」とのことでした。

費用はかさむと思いますが、肺がん検診に、更なる早期発見と診断精度向上のため、「CT検査」の導入を考えてはどうですか。

5. 在宅血液透析患者への助成制度導入についての今後の見通しは

6月議会で提言したことです。その後、市長は患者の家族と会われて実情(窮状)をつぶさに聴かれました。全国的にも助成制度のある自治体はありません。もちろん、県下でも、在宅血液透析患者は、本市に一人だけということもあります。

導入については医師会との関係もありましたが、是非実現してほしいと思います。今後の見通しはどうか。

#### 6. 市内にある中・大型の観光案内看板の補修・更新を

市は、観光客の一層の増加をと様々な方法で大変な努力をされています。そんな中で気になるのが、市内に設置されている、中・大型の観光案内看板の老朽です。色があせ、本体そのものも痛んでいるなど、補修・更新が必要な看板がいくらかあります。

観光客がこれらの看板を見て「なんだこれは？」と思われたいためにも、また、今後の観光客増を目指すためにも早急に手を加えるべきではないですか。

#### 7. 放射線量測定器を購入し、定点での定期的測定と希望者には出張測定を

東日本大震災時の原発事故後、放射線量についての関心が非常に高まっており、市民の方から「井原市には計測器があるんか?」「この周りで原発事故がおきた時、事故前の放射線量がどれ位だったのかを把握しておく必要があるのでは」などの心配や不安の声を聞きます。

井原市でも放射線量測定器を購入し、定点での定期的測定と希望者には出張測定をして、放射線量に関して、市民の安心・安全の確保に努める必要があるのではないですか。

5番 西田久志

#### 1. 交通障害となる支障木の撤去について

協働のまちづくり事業において、官民協働で市道、農道において交通障害となる支障木の伐採を行ってはどうか伺います。

## 2. (仮) 田中ロード設立について

井原の偉人、平櫛田中翁にちなんで商工会議所青年部が行っている「ちびっこ田中さんあつまれ～」も今年で17回目となり、制作したブロンズも20体を超えています。

現在、袋田公園を中心に設置していますが、場所がわかりにくく目立たないという市民の方のご意見もお聞きします。そこで場所を移転し、道路歩道に設置していただき「(仮) 田中ロード」を設立してはいかがでしょうか伺います。

2番 藤原浩司

## 1. 高齢者虐待について

1) 井原市における介護施設や自宅介護による高齢者への虐待の実態について伺う。

2) 高齢者虐待の特徴、発生の要因、高齢者虐待防止について井原市では現在どこまで把握し、どのように対応するのか、また高齢者虐待の相談を受けた場合の支援について伺う。

## 2. 資源ごみの分別等について

① 現在井原市では資源ごみの回収を増やして頂いていますが、井原市全体でどのくらいの資源ごみが増えリサイクル率がどのくらい上がったか、また資源ごみの回収に対して市民の方から苦情はあったか伺う。

② 美星町のような分別を井原市全体に普及させることを考えているのか、また資源ごみの分別を市民の方々に更に徹底して頂く考えがあるのか伺う。

③ 現在のリサイクルセンターへの委託をどのくらいまで継続されるのか伺う。